



前小だより

ひたちなか市立前渡小学校
令和7年度学校だよりNo.10
令和7年11月21日(金)

学びの秋



10月20日(月)～11月10日(月)までの3週間、本校の卒業生2人が教育実習に来ました。実習期間中には、授業研究はもちろん、学級担任の業務や学校行事の引率なども体験してもらいましたが、2人とも明るく爽やかにこなすことができていました。



さて、11月21日(金)には市の教育委員会から指定を受けた授業研究会を行います。昨年度からの研究のまとめとして6人の教員が授業公開を行います。それに向けての準備が進められています。授業研究の目的は、児童の成長のための指導力の向上です。25日(火)からは学校公開も予定されていますので、ぜひご来校いただき、授業の様子をご覧ください。



自治的活動(話し合い活動)について

学校公開期間中、学級活動の中で話し合い活動の様子を公開します。「学校生活をよりよくするために」を学校全体のテーマとして、各学級で話し合い活動を行います。学校生活上の課題に気付き、それに対して自分たちができる改善策について話し合う予定ですので、ぜひご参観ください。

「まえまえちゃん」の着ぐるみを製作していただきました

6年3組の〇〇〇〇さんが、前渡小のキャラクターである「まえまえちゃん」の着ぐるみを製作してくれました。

代表委員を務める〇〇さんが、「まえまえちゃん」の着ぐるみがあれば、もっと学校生活が楽しくなるのではないかと考えて、ご家族の協力をいただきながら製作してくれました。職員室内で歓声が上がくらい、素晴らしい仕上がりです。さっそく、1年生の遠足の出発式でデビューしましたが、これからの学校行事の中でも活用させていただきます。



馬渡埴輪製作遺跡発掘60周年

～「ひたちなか埋文だより第63号」より引用～

馬渡埴輪製作遺跡発掘 60周年

馬渡埴輪製作遺跡は、古墳の周りに並べて使用された「埴輪」を製作していた遺跡です。勝田第三中学校である馬渡字向野に所在し、小さな谷津の台地上と斜面部に広がっています。現在は馬渡はにわ公園・花しょうぶ園として親しまれています。

遺跡は埴輪が確認された順にA～C地区に分けられ、1965年(昭和40)の8月に明治大学考古学研究室と勝田市(現ひたちなか市)教育委員会の共同で発掘調査が始まり、1969年(昭和44)までの4年間にわたり7次の調査が実施されました。調査では、埴輪を焼いていた窯跡や埴輪を成形していた工房跡、材料である粘土を採っていた粘土採取坑、工人在住していたと思われる住居跡などが検出されています。日本ではじめて埴輪を製作する一連の遺構が確認され、1970年(昭和44)には国指定史跡に登録されました。2025年は最初に発掘調査が実施されてから、60周年を迎えます。

その後、1981年(昭和56)から1988年(昭和63)に遺跡の範囲確認のためD～F地区で追加の発掘調査が実施され、これまでに窯跡19基、工房跡12基、粘土採取坑26基、住居跡2基、埴輪廃棄場2基が確認されています。

埴輪の製作遺跡なので完成品は古墳へ運ばれ、製作遺跡に残っているものは、いわゆる失敗作や割れてしまったものです。そのため形が良く残った埴輪は少ないですが、馬形埴輪をはじめとする動物埴輪の一部、円筒埴輪、人物埴輪や家形埴輪の一部が確認されています。窯跡の築成は5世紀後半にC地区で開始され、6世紀にはA・B・D地区で埴輪を焼いていたと考えられており、出土した埴輪の特徴から生産された埴輪は市内の川子塚古墳や鉢の宮古墳群などに運ばれて利用されたと推定されています。埴輪以外には、製作や生活の道具と考えられる土器や鉄鉋、埴輪の装飾に使用された顔料と考えられる一握りのペンガラなどが検出されています。

～遺跡発見の経緯～

当時の勝田第三中学校の生徒がユリの根を探していたところ、偶然に馬形埴輪を発見しました。古墳があるとは思えない場所であり、知らせを聞いた明治大学の先生が現地を確認し、窯跡の可能性があると考え調査が実施されることになりました。

最初に発見された馬形埴輪

ぼくは図本に描かれているように！

ひたちなか市埋蔵文化財調査センター発行の「ひたちなか埋文だより第63号」に「馬渡埴輪製作遺跡発掘60周年」の特集が組まれております。馬渡埴輪製作遺跡は、馬渡字向野に所在し、現在は馬渡はにわ公園・花しょうぶ園として親しまれている場所です。

埋文だよりによりますと、1965年(昭和40年)の8月に発掘調査が始まり、1970年(昭和45年)には国指定遺跡に登録をされたそうです。また、遺跡発見の経緯については次のように紹介されています。

「当時の勝田第三中学校の生徒がユリの根を探していたところ、偶然に馬形埴輪を採集しました。古墳があるとは思えられない場所であり、知らせを聞いた明治大学の先生が現地を確認し、窯跡の可能性があると考え調査が実施されることになりました。」

地域に残る貴重な遺跡であり、児童にもぜひ知ってもらいたい遺跡です。埋蔵文化財調査センターにも、ぜひ一度足を運んでみてください。